

第3回 旧北上川河口かわまちづくり検討会 議事要旨（案）

- ・日時：平成26年3月5日(水)13:30～16:30
- ・場所：石巻市役所 庁議室

1. 第2回検討会の議事概要

○第2回検討会の議事内容について確認いただき、委員の了承を得た。

2. 意見聴取結果について

○住吉小学校ワークショップ、パブリックコメント、市民ワークショップ等の意見聴取結果について報告を行い、委員の了承を得た。

3. かわまちづくり計画概要

(1) 意見聴取結果に対する対応方針

○住吉小学校ワークショップ、パブリックコメント、市民ワークショップ等の意見聴取結果を受けた対応方針（案）について確認いただき、委員の了承を得た。

(2) 検討の基本方針（案）

○意見聴取結果等を踏まえ見直した、かわまちづくりの基本方針、全体設計の方針等について確認いただき、委員の了承を得た。

(3) 整備の基本的な考え方（案）

- 意見聴取結果等を踏まえた堤防・護岸の各区間の位置づけや、施設計画の考え方等については、概ね委員の了承を得た。
- 今後、夜間の景観デザイン（照明施設等）やサインシステム等について、具体的な検討が必要であるとの意見をいただいた。

【主な意見】

- ・照明施設やサイン等について、今後検討が必要である。
- ・照明施設を、全川に設置することは困難である。都市的な利用が考えられる中央地区や湊地区などに、適宜配置を考えていく。
- ・LED照明やソーラーパネル付きのものなど、環境に配慮したものの設置が望ましい。
- ・是非照明は欲しい。明るい河川空間ができれば、とても好印象である。設置にあたっては、行政だけでなく、民間が設置するようなシステムや体制が構築できると良い。
- ・河川施設のデザインに力を入れているので、照明施設についてもきちんとデザインを考えて欲しい。
- ・中央地区については、港湾施設として港湾局で照明を設置する必要があるのではないか。設置の可否について、確認を要する。

- ・全川で路面照度を確保することは難しいと思われるため、目印的な明かりでも良いのではないか。どのような明かりが相応しいのか、夜の景観デザインについても考える必要がある。
- ・サインについては、設置主体でデザインが変わることの無いよう、市が中心になってサイン計画を作り、県、河川管理者等とデザインや設置位置等について同調するようにして欲しい。

(4) 堤防デザインの考え方 (案)

○堤防・護岸のアースデザインおよび水辺の施設配置案等について確認いただき、委員から以下のような意見をいただいた。

- ・堤防のアースデザインについては、概ね了承を得た。
- ・親水階段（かわど）については、デザイン、配置、安全対策等について、地域の意見等も踏まえて、具体の検討を行う必要がある。
- ・護岸線形の凸部等にも、アイストップとなる植栽を検討する。

【主な意見】

①堤防のアースデザインについて

- ・丁寧に線形をデザインしている。

②親水階段（かわど）について

- ・かわどは、背後の住宅などとセットになった空間装置のはずなので、単純にかつてあったイメージのものを設置する考えでは、違和感が生じる恐れがある。今回デザインした堤防の線形に自然に収まるよう工夫した新しいかわどのデザインを考えてはどうか。
- ・かわどと四阿をセットで配置することはできないか。
- ・昔は、かわどから川へ転落する事故がしばしばあったので、安全対策を考える必要がある。
- ・利用者がいないようなところには、設置する必要が無いのではないか。むやみに多くつけばいいものだとは思わない。
- ・かわどは、今後地域の方々や利用される方々の意見を聴きながら、形状や配置等を検討していく。

③樹木（植栽）について

- ・坂路からのアイストップとなる位置に植栽するのは良い。加えて、護岸線形の凸部を意識した植栽があると、より良くなる。
- ・凸部の先端から、少しずらした位置に植栽するほうが、より良いアイストップとなる。

(5) 拠点部のデザインの考え方(案)

- 拠点部(中央地区、住吉小前、住吉神社前、湊地区)ならびに、藤巻・井内地区のデザイン案について確認いただき、委員から以下のような意見をいただいた。
- 住吉小前
 - ・ダンボール滑りを考えた場合には、法面の勾配に工夫が必要である。
 - ・水制工部分の安全対策について、水中に設ける段状の部分を1 m以上は確保した方がよい。
- 住吉神社前
 - ・デザイン案については、概ね了承を得た。
 - ・愛宕山の輪郭線がきちんと分かるように、法面との取付けに配慮が必要である。
- 湊地区
 - ・防災緑地(二線堤、堤防背後の盛土空間)と堤防が一体となったアースデザインを、今後検討して欲しい。
 - ・テラスのエッジ部がぼやけるよう、捨石部の処理に工夫が必要である。
- 藤巻・稲井地区
 - ・再度ワーキング等の中で検討を行う。

【主な意見】

①中央地区

- ・デザイン方針に、夜の景観デザインに関する考えも追加して欲しい。
- ・例えば、係船柱にライトを仕込んだり、法尻の腰積みの部分にフットライトを設置するなど、利用者を考慮した、また、船舶係留の利便性を阻害しないような照明を検討する。
- ・中央地区のデザインのベースはアースデザインであり、デザイン案のイメージをベースとすることでよい。法尻に平面的なアンジュレーション等をつける必要はない。
- ・花火の観覧は斜面(法面)に座ることになると思われ、緩い勾配の部分を増やすために、法尻の腰積みの高さを高くしても良いのではないか。
- ・できるだけ花火等が観覧しやすい形状にして欲しい。
- ・中央地区の商業施設の入込み客数は、年間最低50万人以上を見込んでおり、特に川開きの時などは多くの人手が予想されるため、安全対策を考えて欲しい。

②住吉小前

- ・ダンボール滑りをするには、斜面(法面)が3割勾配では厳しいのではないか。勾配が急なところと緩いところがあると良いのではないか。
- ・水制工部分の安全対策について、水中に設ける段状の部分を1 m以上は確保した方がよい。

③住吉神社前

- ・愛宕山の輪郭線がきちんと分かるように、法面との取付けに配慮が必要である。
- ・どんと祭りの開催にも配慮した水際形状とする必要がある。

④湊地区

- ・防災緑地（二線堤、堤防背後の盛土空間）との関係について、市の計画が明確になったら、市と国が調整を図り、堤防と防災緑地が一体的なアースデザインを検討して欲しい。
- ・模型を見ると、テラスのエッジ部がまだ固い印象がある。エッジ部のラインがぼやけるよう、捨石部の処理に工夫が必要であるとともに、施工時にデザイン意図を確実に引き継ぐ必要がある。

⑤ 藤巻・稲井地区

- ・施工性、コスト等の兼ね合いもあるが、最終形として何がベストなのかを考え、長期的な視点から検討が必要ではないか。また、当該地区の利用を考えた際に、計画のような広いテラス空間が本当に必要か、検討が必要である。
- ・テラス空間ではなく、堤防上を歩いてもらい、法面から直接石積みにするような構造でも良いのではないか。その方が、現在の石積み護岸や石切り場の印象と調和するのではないか。
- ・当該地区については、再度ワーキング等の中で検討を行う。

4. 今後の進め方について

○以下に示す、今後のかわまちづくりの検討案ならびに予定等について、委員の了承を得た。

- ・「市民部会（仮称）」を新規に設置し、「検討会」「学識者ワーキング」「市民部会（仮称）」の3つの検討の場を活かし、地域に重点を置いた検討を進める。
- ・6月上旬を目途に、「旧北上川河口かわまちづくり市民報告会（仮称）」を開催し、意見聴取結果を踏まえた計画検討方針案を市民に提示する。
- ・学識者ワーキングを開催し、検討のブラッシュアップを行う。

【主な意見】

- ・「市民部会（仮称）」は、意見を聴く会だけではなく、どう反映したかについて報告する会をワンセットとして考える必要があり、年2回ということではなく、2セットという考え方で実施して欲しい。
- ・「旧北上川河口かわまちづくり市民報告会（仮称）」では、委員の先生方に話をする場を設けて欲しい。